

平成 29 年度	子ども青少年部の取り組み実績
	<部の構成> 子ども青少年政策課、子育て事業課、子育て運営課、保育幼稚園課、 子ども総合相談センター

1. 重点施策・事業

(1) 子ども・若者の課題対策の充実

目標	子どもの貧困問題など、子どもを取り巻く様々な課題に対応するため、子どもの生活に関する実態調査の結果等を踏まえ、子ども・若者の課題対策の充実を図ります。
取り組み	<p>昨年に実施した子どもの生活に関する実態調査の結果等を踏まえ、子ども食堂の取り組みの拡大を図るとともに、子どもの貧困など子どもを取り巻く様々な課題に対し、効果的な支援策の検討を進めます。</p> <p>ひきこもりなど複合的な困難を抱える子ども・若者を支援するため、関係機関のネットワーク組織である「子ども・若者支援地域協議会」を設置するとともに、策定されてから5年目になる「子ども・若者育成計画」の改定に取り組みます。</p> <p>妊娠・出産、子育て期に加え、結婚期も含めた切れ目のない支援を行うため、市内に居住する新婚夫婦への支援として、住宅の購入費用や賃借費用、引越費用に対する助成制度を開始します。</p> <p>平成 29 年度当初予算：35,574 千円</p>
実績	<p>子どもの生活に関する実態調査の最終取りまとめを行い、その結果を踏まえた対策の一つとして、子ども青少年部と学校教育部の両方に所属する「子どもの未来応援コーディネーター」(2人)を配置し、学校への巡回等を通じて課題を抱える子どもを早期に発見し、福祉等の支援制度の情報提供や支援機関へのつなぎなどを行うための体制を整備しました。子ども食堂については、新たな8団体を含む19団体(21ヶ所)に補助金を交付するほか、食材寄付の取次ぎなど、団体が安定して運営するための支援を行いました。</p> <p>「子ども・若者育成計画」の改定については、平成29年6月に青少年問題協議会に諮問し、大阪府が実施した民生委員・児童委員へのアンケートや、本市で活動するひきこもり・不登校の家族会へのアンケートの調査結果等を活用し、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえて改定版を策定しました。また、平成30年3月に「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、これまでの「ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」については同協議会の実務者会議として改編し、関係機関の更なる連携とネットワークの向上を図ることとしました。</p> <p>結婚しやすい環境づくりや少子化対策につなげるため、本市で新たに生活を始める新婚夫婦の住宅の購入費用や賃借費用、引越費用に対して補助を行う「結婚新生活支援事業」を開始し、104組の新婚夫婦に対して補助金を交付しました。</p>

平成 29 年度決算：35,784 千円（※補正予算等の対応あり）	
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

（２）待機児童対策の推進

目標	安心して子育てと仕事を両立できるよう、いわゆる潜在的な待機児童も含めた通年での待機児童の解消に向け、平成 31 年度当初までに 500 人の入所枠の拡大を目指します。
取り組み	待機児童の解消に向けて、私立保育園及び認定こども園による増改築や、分園設置等を行い、定員増を図ります。また、私立幼稚園から認定こども園への移行支援や、小規模保育事業の開設及び公立保育所の民営化などによる定員増の取り組みを進めるとともに、不足する保育士の確保策として、保育士用住居の借り上げ費用の支援等を行います。その他、私立幼稚園で実施されている預かり保育を充実させることにより、いわゆる潜在的待機児童も含めた通年での待機児童の解消に努めます。
	平成 29 年度当初予算：1,193,653 千円

実績	<p>4 月当初に旧枚方区検察庁舎施設を活用したおおがいと小規模保育施設の開設（定員 19 人）、認可外保育施設のうち希望があり、かつ設備基準等を満たす 3 園の小規模保育事業実施施設への移行（定員 34 人）、私立幼稚園の幼稚園型認定こども園への移行（定員 20 人増）により計 73 人分の定員増を行いました。7 月に北部支所のスペースを活用し、楠葉なみき小規模保育施設を定員 19 人で開設、9 月には幼保連携型認定こども園で 20 人の定員増、10 月には私立保育所の分園設置により 20 人の定員増を行いました。さらに、枚方保育所の増改築事業の完了に加え、私立保育所の増改築（2 ヶ年事業の 1 年目）及び大規模修繕を各 1 ヶ所で実施するとともに、社会福祉法人による小規模保育事業の実施（3 ヶ所）などに取り組み、平成 30 年 4 月に 91 人の定員増を行いました。また、走谷保育所の民営化に向け、9 月から運営法人選定審査会を開催し、12 月に運営法人を決定しました。その他、次年度に向けて市立幼稚園の余裕保育室を活用した小規模保育事業実施の方針を決定しました。</p> <p>また、年度途中の受け入れを図るため保育所等に保育士雇用のための補助金を交付し受入枠の拡大を図るとともに、私立幼稚園における預かり保育の充実を図るため補助要綱を制定し、8 園に対し助成しました。さらに、保育士確保のための保育士用住居の借り上げ費用の補助については、4 件（3 園）に対し助成しました。</p>
	平成 29 年度決算：783,891 千円
取り組みに対する達成状況	【 ○ 】

(3) 保育サービスの充実	
目標	保育ニーズがますます多様化、複雑化する中、病児保育の利便性の向上やひとり親世帯等の保育料軽減等により、保育サービスの充実を図ります。
取り組み	<p>枚方市病児保育室の利用申込の受付時間等を拡充するなど利便性の向上を図るとともに、国の制度に基づきひとり親世帯等に対して保育所や幼稚園等における保育料を軽減します。</p> <p>また、保育所等への送迎や預かりなどの支援を受けられるファミリーサポートセンター事業について無償で体験できる仕組みづくりに取り組むことで、子育ての負担感や不安感の軽減を図るとともに、子育て世代の市民が必要とする情報を的確なタイミングで得られるよう、スマートフォンの機能を活用したアプリを配信し、安心して楽しく子育てできる環境整備を進めます。</p> <p>平成 29 年度当初予算：16,088 千円</p>
実績	<p>平成 29 年 4 月より、枚方市病児保育室の利便性の向上を図るために、利用申込の受付時間等を拡充するとともに、国の制度に基づきひとり親世帯等に対して保育所や幼稚園等における保育料の軽減を実施しました。</p> <p>また、平成 30 年 1 月からファミリーサポートセンター事業の無料体験を開始するとともに、スマートフォンの機能を活用した子育て応援アプリ「スマイル☆ひらかたっ子」の運用を開始し、子育ての負担感や不安感の軽減や安心して楽しく子育てできる環境整備の一助としました。</p> <p>平成 29 年度決算：3,718 千円</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

(4) 新児童発達支援センターの整備	
目標	整備予定地である元第四学校給食共同調理場跡地において、平成 31 年度の開設に向けて新たな児童発達支援センターを整備します。
取り組み	<p>知的障害児通園施設のすぎの木園と肢体不自由児通園施設の幼児療育園が抱える老朽化への対応や施設機能の充実などを図るため、両施設の機能を統合した「(仮称)枚方市立児童発達支援センター」について、整備に係る設計完了後、工事に着手します(平成 31 年度開設予定)。</p> <p>平成 29 年度当初予算：45,076 千円</p>
実績	<p>(仮称)枚方市立児童発達支援センター整備計画に基づき、平成 28 年 6 月から取り組んでいた、建設にかかる基本設計・実施設計委託を平成 29 年 7 月に完了し、平成 29 年 12 月末から工事に着手しました。</p> <p>平成 29 年度決算：38,256 千円</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

(5) 子ども総合相談センター「となとな」における相談支援の充実

目標	家庭児童相談やひとり親家庭等自立相談、子ども・若者のひきこもりなど、多様化・複雑化する相談に総合的に対応する、子ども総合相談センター「となとな」における相談支援の充実を図ります。
取り組み	総合相談としてセンター内での連携に加え、関係部署や関係機関と連携を行い、相談支援の強化を図ります。 専門相談員においては、面接技法やアセスメントなど様々な専門的技術等の獲得に向け、学識者や精神科医などから系統的に研修を受講できるよう取り組みます。また、改正児童福祉法において要保護児童対策調整機関に置かれた調整担当者には厚生労働大臣が定める基準に適合する研修が義務付けされたことを受け、職員の資質向上を図るため、適宜、研修を受講できるよう取り組みます。 平成 29 年度当初予算：1,063 千円
実績	児童虐待や不登校、ひきこもりなど、さまざまな困難を抱える子ども・若者や、ひとり親家庭への包括的な支援を充実させるため、平成 29 年 4 月に施行された児童福祉法の改正を受け、9 月 1 日に全国に先駆け、子ども総合相談センター「となとな」を「子ども家庭総合支援拠点」として位置づけました。支援拠点の運営にあたり、国の補助金の活用が可能となったため、非常勤職員を採用する等、より相談しやすい体制づくりを進めました。 さらに、職員の資質向上や専門性の向上を図るため、市独自の専門相談員研修として、面接技法や支援技法について、ロールプレイを用いるなど、より実践的な研修を行いました。また、6 月から 9 月にかけて 9 日間開催された、大阪府主催による児童福祉法の改正に伴う調整担当者研修に 6 人が受講するなど、専門的な知識や援助技術の取得に向け取り組みました。 平成 29 年度決算：599 千円
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

2. 行政改革・業務改善

◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
24. 保育料の改定	国が進める幼児教育無償化の進捗や、他市の動向を踏まえながら、保育料改定に関する方針を検討します。
実績	国が進める幼児教育の段階的無償化として、3～5 歳児および住民税非課税世帯の 0～2 歳児の保育所・幼稚園等における保育料無償化などが示されており、そういった国の動向を注視しながら、本市の保育料水準について検討を行いました。
取り組みに対する達成状況	【 △ 】

改革課題	取り組み内容・目標
43. 公立保育所の民営化	「公立保育所民営化計画（中期計画）」後の取り組みとして、走谷保育所の民営化を進め、平成31年度に民営化を行います。 残る公立保育所の民営化については、様々な手法を視野に入れ取り組みを進めるとともに、公立幼稚園の効果的で効率的な運営及び配置のあり方を含めた総合的な検討を行います。
実績	走谷保育所の民営化方針を受け、2月に続き6月に保護者説明会を実施しました。また、9月に私立保育所民営化に係る運営法人選定審査会（走谷保育所）を設置し、10月から11月にかけて運営法人の募集を行いました。12月に審査会から答申を受け、移管法人を決定しました。法人決定後、2月に保護者説明会を実施しました。
取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
45-2・45-3. 技能労務職員の適正配置に向けた取り組み（児童福祉施設用務・営繕業務）（児童福祉施設調理業務）	児童福祉施設における用務・営繕業務については、委託可能な業務の整理を行います。 また、調理業務については、将来的な民間活力の活用に向け、安全・安心な給食を安定的に提供する体制を確保する中で、委託可能な範囲について検討を進めます。
実績	児童福祉施設における用務・営繕業務については、より効率的・効果的な運営の観点から、一部業務委託に向け、引き続き委託可能な業務の整理を行いました。 また、調理業務については、将来的な調理業務のあり方について、安全・安心な給食を安定的に提供できる体制の調査研究に取り組みました。
取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】	

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
ペーパーレス会議の実施	一部の会議において、タブレット端末を活用したペーパーレス会議を実施し、会議運営の効率化を図るとともに、環境対策につなげます。
実績	資料の枚数が多い会議を中心にペーパーレス会議を実施し、印刷する書類を大幅に削減し、環境対策につなげました。
取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】	

3. 予算編成・執行

- ◆保育所入所枠の拡大を図るため、保育所分園や小規模保育事業の実施にあたり、待機児童解消加速化プランに参加し、安心子ども基金対策事業補助金及び保育対策総合支援事業費補助金をより有利な補助率で活用し、財源を確保します（安心子ども基金：創設・改築等の場合は補助率 国 2/3、市 1/12、大規模修繕等の場合は国 1/2、市 1/4）。

実績	保育所等の入所枠拡大のため、私立保育所の増改築（2ヶ年事業の1年目）及び大規模修繕を各1ヶ所で行い、社会福祉法人による小規模保育事業の実施（3ヶ所）に取り組みました。施設整備に係る国庫補助金等について、増改築及び小規模保育事業の整備については、待機児童解消加速化プランの採択を受けたことにより、補助率のかさ上げ措置を受け、適切な予算執行を行いました。	
取り組みに対する達成状況		【 ◎ 】

- ◆市立枚方保育所の建替え工事を行うにあたり、国の社会資本整備総合交付金を活用し、財源を確保します（補助率：国1/2、市1/2）。

実績	建替え工事を行うにあたり、社会資本整備総合交付金を活用し、財源を確保しました。（83,800千円：平成29年度決算額）	
取り組みに対する達成状況		【 ◎ 】

- ◆公立保育所維持管理業務における各公立保育所の修繕料の積算について見直し、3年間で540万円削減します。

実績	営繕等の工夫により修繕料を削減しました。	
取り組みに対する達成状況		【 ◎ 】

4. 組織運営・人材育成

- ◆毎月、課長以上による連絡会議を行った上で、速やかに部全体での情報共有につなげることで、部の職員全員が「市政運営方針」や「部の運営方針」を含めた部の重要課題を十分に認識し、各職場において課題解決に向けた取り組みを進めます。

実績	毎月の定例業務として課長以上による連絡会議を行い、部内で課題等を共有することができ、各課においても共通の意識を持ち課題解決に向けて取り組みを進めました。	
取り組みに対する達成状況		【 ◎ 】

- ◆妊娠・出産から子育て期にわたる、子どもの年齢等に応じたきめ細かな情報発信手法の検討に際し、部内横断的に選出された職員で編成するチームを設置し、様々な調査・研究に取り組むことで、職員の人材育成を図ります。

実績	効果的な子育て情報の発信手法の検討について、部内横断的に選出した職員によるチームを設置。案内冊子『子育て応援ナビ』の改訂や、子育て情報アプリ『スマイル☆ひらかたっ子』の開発等を通じ、部内各課の職員が連携して業務にあたる意識の醸成を図りました。	
	取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

5. 広報・情報発信

- ◆スマートフォンの機能を活用した「(仮称) 子育て情報アプリ」を配信し、登録された住所や子どもの年齢等、市民一人ひとりの状況に応じたきめ細かい情報発信に取り組めます。

実績	平成 30 年 1 月に子育て応援アプリ「スマイル☆ひらかたっ子」の運用を開始し、保育所等で実施する各イベント情報等の掲載を行うとともに、登録された住所や子どもの年齢等により対象者を限定したプッシュ通知等により、市民一人ひとりの状況に応じたきめ細かい情報発信に取り組めました。	
	取り組みに対する達成状況	【 ○ 】

- ◆子育て世代が必要とする情報をホームページをはじめ、ツイッターやフェイスブックを活用して適宜発信するなど、情報発信の充実を図ります。

実績	子育て世代の親や子どもたちを対象とした情報について、市ホームページやツイッター、フェイスブック、リーフレットの配布等により、広く周知を行いました。	
	取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】